



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

『究極のカラマツ林づくり』

寒さも和らいだ晩秋の一日、保科先生の山林を見学させてもらいました。朝いちば三峰川支流の小黒川上流にあるカラマツ山。二十四ヘクタールのうち、一九六三年に植えら



風通しのよいカラマツ林。0.1haの試験区

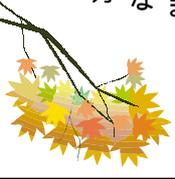
れた六ヘクタールのカラマツ林の一角に一アールの試験区がありました。ここにはすくすくと伸びた三十四本のカラマツ。平均樹高は推定で二十四メートル近くある



下草が刈ってあるので向こうのほうまで根元が見える

長谷村の中央構造線公園でお弁当を食べた後、ダム湖対岸の三十五年生カラマツ林、そして鹿嶺高原入り口の百年生近いアカマツ林といずれも保科先生の山造りの一端を垣

間見る事のできる、見事な山林を見せていただきました。目からうつろこの一日でした。さて一方別働隊十一人はイントラの大使、坂野のもと、伐木造材に磨きをかけるため、ますみヶ丘財産区有林に入りました。木を倒すのは今回が最後、まがりなりに自分で倒せるようになったでしょうか。傾斜はほとんど無いものの二十数メートルに伸びた癖の悪いアカマツをまあまあ思った方向に倒せれば、初級コース合格というべきでしょう。今後も安全で確実な伐倒をめざしていただければと思います。まだ切り足りないなという方が希望あれば後は個別で。



すでに落葉が始まっているが空がしっかり見える

第十五回

11月16日(土)

『山林見学と伐倒』

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。日程説明の後、見学班十三人はワゴン車二台で天竜川を越え南アルプスの内懐、長谷村に向かう。伐倒班はますみヶ丘の現場へ

見学班

10時 小黒川沿いのカラマツ林へ。保科先生はもう随分前にここで待っていてくださった模様。林のつつきの歩道の修理が百メートルほど終わっていた。保科先生の軽妙な説明。今までに何百人かはここを訪れているはず

だ
 11時30分 長谷村溝口の中
 央構造線公園に戻り昼食。
 なるほど、これがそれか。
 ナウマンさんが命名した
 そうだ

1時 美和ダム対岸の三十五年生カラマツ林。すでにヘクタール三百本で平均直径は約三十センチ。これはすごい。このあと近くのKOA森林塾一年目で植林したヒノキ林と枝打ちカラマツも見学した後

2時30分 鹿嶺高原林道入り口のアカマツ林見学。見事に伸びた百年生近いアカマツ。もうマツタケは期待できないがシヨウウゲンジやキシメジは十分楽しめること。歩道もきれいに入り、すぐ下の保育園の園児さんご用達のきのこ山。春は三つ葉ツツジが山一面で見事です

4時 小屋に戻り解散。佐藤さん、運転手ありがとうございました。

伐倒組

9時 伐倒。とりあえず伐倒のみ。伐倒方向や立ち位置から退避するまで。復習開始

11時 枝払い・造材。流れるような前さばき枝払い。向こう側を伐ってから手前へ廻し伐り造材



35年生、300本/ha 伸び伸び伸びる



谷にスギ、中にヒノキで尾根カラマツ、教科書どおり

12時 昼食。日影は寒い
13時 伐倒し枝払い造材、木寄せの一連の作業を一人で。きれいに間伐が進んで行く一人五本くらいは倒せたのでしようか。お疲れ様でした
15時45分 作業終了。小屋へ

16時 戻り 解散
参加者/井上さん、尾形さん、長部さん、梶原さん、北澤さん、鬼頭さん、木村さん、黒岩さん、小泉さん、小山さん、斉藤さん、佐藤さん、下平さん、館野さん、坪内さん、成田さん、長谷川さん、淵上さん、松田さん、宮沢さん、山田さん、和辻さん、長坂さん、山浦さん、講師/保科先生、スタッフ/大野、坂野、早川



あのナウマンさんが(象じゃないぞ)名付け親なんだって



見たか！これが中央構造線



次回以降の予定
第十六回「炭焼き」
11月30日(土)
今年最後の開催です。移动式炭化炉を使って炭焼きを試みましょう。アカマツ炭、カラマツ炭です。仕込み、火入れを午前中に済ませて後は火の番です。
そばうちもしてみましよう。そばが待ちきれない方は要お弁当。そして夕方からは忘年会です。この時期なら鍋物かな。何かご希望あれば事務局まで。
窯止めは恐らく丑三つ時くらいか。そして窯を開ける事ができるのは翌朝になります。可能な方は火の番を一つ小屋でお付き合ってください。窯開け時には汚れてもよい作業着、マスクなどが必要



枝を打ったカラマツ林。美しい



です。希望者はできた炭お持ちいただけます。あれば、空になった米袋など持参ください

第十七回「きのこ植菌」
3月1日(土)

平成14年度の最終回になります。シイタケ、ナメコなどのきのこを原木栽培するための菌打ちです。種駒、鋸菌の両方の方法でやってみる予定です。8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。この時期このあたりは積雪や道路凍結などの可能性があります。車でお見えの方はスタッドレスタイヤやチェーンなどの滑り止めをご用意のうえお気をつけてお越しください。道路状況などの問い合わせは事務局まで。



鈴木有氏らの呼びかけで始まった「国産材で家を作る運動」を知り、やっと動き出したと内心ホッとしたのが昨日のようです。あれから漠然と、ついの住家は、八畳一間に土間があって、板壁で、柱は間伐材で...と夢を描くものの実際の行動となると熱は入らなかった。第一、私にとって、森はしるうとの入るべからざる聖域であった。脚半に地下足袋姿は聖人に見える。どう取り組んだらいいのか、あちらこちらで勉強会を

秋の二泊三日の集中コースに初めて参加させていただきました。保科孫恵先生、鳥崎洋路先生はじめ、実地指導くださったスタッフの皆さまには、右も左もわからぬ新参者に、心温まるご指導いただき、心よりお礼申し上げます。

リレー通信
新たな問題集
田幸 さよ子



扱いされた当時を振り返る。土壌微生物の健全な繁栄あつての作物。無化学肥料、無農薬。食べ物が命を育む。未来を悲観した当時の投げやりな若い農業後継者を励まし続け、何人かの実践者を育てあげた安堵の思いと、世

やっていると、事を耳にして、私はしろうとだしなア、とモンモンとしていたそんなある日、突然知人から、「山に入れる旨の話が舞い込んだ。私は飛びついた。畑で時々はいている地下足袋だけを持って。もう、ワクワクドキドキ、山野草を取りに入るのとは一段も二段も高尚な心境」

さらに、森林塾受講の話が出るも、専門知識を得るなんて、私にはそんな資格はないと、最初から及び腰であった。第一予定が入っている。しかし、せっかくなのチャンス、ともかく別の人間をプロに育てよう、と考えるのが精一杯だった。そして、なんとその予定が一週間ずれることになり、思いがけない自らの参加となったのです。

産、国産支持への方向転換に、私の役目は、一段落したと思つた。人生五十年、人の三倍も、がむしゃらに生きたから、もう休みたい。人生の幕引きの準備をアレコレ考え

『森の再生』まさか、私への新しい問題集(?!)じゃないでしょ、と、訝つてみるのですが、どうして、こんなにうれしいのでしょうか。なんだかわからないけれど、涙が出るほどうれしいのです。研修所に、辿り着いたとき、若い人達(女性も含めて)が、こんなにも興味を持って

かと思う若い美人の先生と山の事は、何でも知り尽くしている私と同年代の男の先生(もっと若かったらゴメンなさい)。そのまま直径が出る不思議なスケールを作成し、森に入る。柔らかな秋の陽射しと、檜の木々が気持ちよく迎えてくれた。樹高を測る道具も興味深かった。少しづつプロになつていく錯覚

『森の再生』まさか、私への新しい問題集(?!)じゃないでしょ、と、訝つてみるのですが、どうして、こんなにうれしいのでしょうか。なんだかわからないけれど、涙が出るほどうれしいのです。研修所に、辿り着いたとき、若い人達(女性も含めて)が、こんなにも興味を持って

の中で、「十年待つてくれ」ではないけれど、森の再生サイクルが百年、二百年単位であるとしたら、そのうちの数年を「そつと見守る」ゆとりをもちたいものだ、つくづく実感しました。植林と自然再生林、どちらが森が喜ぶことなのか。私たちは、自然を借りて、あまりに壮大な実験をし、失敗をした。「借りた借りは返す」という法則があてはまるならば、私たちは、これから返さなければならぬ。

習日は、小雨。予定を変更。先生の案内で研修所となりの伐採跡地へ。ここで強烈な印象を受けた事を特記する。こ



リレー通信
風が吹いていた
山下 眞志

私の生まれた愛知県碧南市は新須磨と玉津浦という海水浴場がふたつもあつた海辺の町です。

夏になると、まだ小さかつた私を自転車の荷台乗せて親父が海に連れて行ってくれた事を思い出します。日が暮れるまで遊んで、そして親父の運転する自転車の荷台に乗って帰るとき、海を渡つて吹いてくる松風が、日に焼けて火照つた体に気持ち良く、睡魔と戦いながら自転車から落ちないように親父に必死につかまりながら、ぼんやりとした意識の中で何か大切なことを教えてくれたようなそんな気がします。

い。」という危険な場所になつてしまった。そして風は無口になり、何か大切なものを失つてしまいました。あれから四十年、風は、ときに弱く、ときに強く吹いては小さな悩みを吹き飛ばしてはくれましたが、何も教えてはくれません。世間の垢と贅肉だけは沢山付いたが、大切な何かは禿げ、いや剥げ(他意はありません)落ちたまま

いまは、ゼネコンの設計部で建築設計している。食う為とはいえ自分の思いとは裏腹に、たくさんの田圃や里山を潰して工場や物流倉庫を設計している。その罪の重さに耐え切れず、愛知県東の募集した間伐支援隊に応募してボランティアで山の手入れをはじめた。罪滅ぼしのつもりで少しでも山が元気になればと思いはじめた。



何とか歩いて下りられそうだと判り、幾分冷静さが戻って流れる雲を枝葉の間から見上げてみると、ふと言葉が浮かんだ。それは「間伐と下草刈りに来たけれど、木を伐らさずに足切つて、草を刈らずに痛かった。」だった。我ながら上手く出来た、「うふふ座布団一枚だな。」などつぶやきながら足から血を流してニタニタしながら歩いて山から下りてきた事を思い出すと(思い出したくないが)ああ…笑える。と、ここまででは親睦会でも告白したのでご存知の方もいらつしやると思うので後日談をひとつ、傷は五針縫ったが化膿することもなく三週間ほどで完治した。これを戒めとしようと思つて包帯を取つて初め傷跡を見るとイナズマのように見えるではないか。早速、娘を呼んで、「この傷跡がここ(額)にあればハリー・ポッターだったが、膝にあるんじゃハリー(で)ヌッターだな」と言つてやつた。…ぜんぜん受けなかった。それ以

来、家族の視線が冷たい。閑話休題
二十歳のころ見た民家の木組みの美しさに魅せられ、自分も造りたいとずつと想つて来た。犠牲者は実父であった。道路拡張に伴う建替えで十八坪の住宅を設計することになり、会社で溜まったフラストレーションをここぞとばかりに解消した。ところが、設計は出来たが何処へ行けば国産材が入るのか、誰に頼めば良いのか判らず町の工務店ではほとんどが外材で川上とのネットワークが既に消えていることに驚いた。どうしたものかと思つたが、木は何処にある?山だ!さればと思つて足助に木を探しに行ったのが山にかかわる始まりだった。そんな時、NPO緑の列島ネットワークのMOKスクールで島崎先生の講演を拝聴し、目から鱗が落ちた。何枚も落ちた。木を伐ることは必要なこと、山に木がありすぎるとその手入れがされない為に山が荒れていること。しかし、やればできること。そしてなにより国産材を使う事で家を造ることは山を甦らせることになることがわかつて、輝く頭、いや明日が(ほん)と他意はありませぬ保科先生)見えた

気がした。KOA森林塾へ入りたいと思つた。伊那市までの距離を考えると続くかどうか不安はあったが、来て良かった。個性豊かな塾生の皆さん、親切なインストラの方々、すばらしい講師陣。本当にあつと言つた半年でした。
毎回参加するたびに触発されているのですがなかでも印象に残っているのは、島崎先生が仰られた「山造りにベストは無い、正解はひとつではないのだから自分がベターだと思つたことをやれば良い。」(違つていたらゴメンナサイ)という事と、そしてもうひとつ、間伐の実習の時にイントラの石原さんが言った「切り株には山の神様が座るのだから丁寧にきれいに伐らなければダメ。」(違つていたらゴメンナサイ)ということ。これには参つた。国産材を使うという意味は、単に木組みの家を伝統構法で造ればよいというだけでなく、その裏にある文化や川上の思いを入れて建てることではないかと。それがなければ外材を使うのとなんら変わらないのではないかとこのことに気が付いた。カルチャーショックだった。ここなら見つかるかも知れないと思つた。小さいころの大切な無くし物が、それは、小さいころ誰もが持っていた自分だけの神様かもしれない

と。Slow but steady 焦らずやつていこう。まだ小さいころ見失つた神様は見つからないが、今度は山の風が教えてくれるかもしれない。
出来ることからやつていこう。そしていつかは私の伐つた切り株にもどうぞ座つてくださいと言えよう。
風を感じながら
The answer my friend is blowing in the wind the answer is blowing in the wind.....

コラム

子供のころ、すてきな香りの石けんを引出しに大事にしまつて、なでたりにおいをかいたりして大事にしておきました。しつとりした手触りと重みで、不思議な魅力がありました。自分で簡単に、しかも肌や髪にすばらしい効用のある石けんが作れることを最近になって知り、今、石けんづくりに夢中です。
石けんは油、苛性ソーダ、水を原料としてつくります。原料となる油は植物性のもので主に使うのですが、オリーブ、なたね、ごま、アーモンド、ココナッツ、マカデミアナッツ、ヘーゼルナッツ、つばき、米(ぬか)：…などなど、ひまし油なんかも使いま

す。実にさまざまなものがあるのですが、使う油、ブレンドのしかたによつて石けんの性質や、肌に対する効用が変わつてきます。
しつとりしたり、さつぱりしたり、傷や荒れ肌の修復を助けたり、日焼け止め作用があつたり。ぶくぶく大きな泡がたくさん立ったり、しつとり、とろりとしたきめごまかな泡が控えめに立ったり。さらに、香り付けや肌や髪への効用のためにエッセンシャルオイルをいれたり、花びらをませたり、仕込みの水をハーブを煮出したものにしてたり、保湿のためにちみつや米ぬかを混ぜ込んだり…。
知るほどにつくるほどに世界は広がり、あたらしい試みが次から次へと浮かんできてわくわくします。型に入れてから使えるようになるまでに四、六週間かかるので、熟成を待つ石けんがどんどんできます。あんまりたくさん石けんがあつても、と思つたので(見ている家族の手前)やたらに作れないのです。
「ユズの皮とヒノキの香りのせつけん」「ピンク色したごま油のせつけん」「コーヒを仕込みの水に使つて、クレイを混ぜた消臭効果と汚れ落ち抜群のせつけん」「編模様の石けん」「牛乳石けん」「透明な石けん」…。
作りたいたい石けんがいっぱいあつてドキドキします。当分、このドキドキに身を任せるとも。
くうー、たのしい!!
「うら」
カラマツの葉がはらはらと落ちて背中に入るくらいは我慢できますが、野沢菜や白菜の葉の間に入ってそのまま漬物になつてしまつるとんだ迷惑。カラマツ入りキムチなんてまったくいただけません。ところで他の針葉樹はすつと葉が落ちないかというところでもなく、ヒノキの葉も、薪ストーブの焚き付けに欠かせないアカマツの葉もちょうど今頃、はらはらと落葉しているのです。カラマツの葉が半年余りでストラされてしまつのに比べ、アカマツの葉は一年半余り、ヒノキの葉は五年半余りで同じようにリストフの曇き目に遭つている、その期間の違いなのだそうです。(参考：森林の100不思議)

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp

